

未唯 mie (みい)

萩原朔美

大島加代子

大島政昭

雨宮友美

雨宮潤

ナカジマタカヒロ

生方保光

(打楽器演奏)

前橋文学館開館記念イベント

寺山修司を読む

まんたら



前橋文学館は今年開館32周年を迎えます。これを記念し、寺山修司の戯曲「まんたら」のリーディングシアターを開催します。出演は、ピンク・レディーで活躍し、現在は花柳流の名取でもある未唯 mie (みい) 他です。是非、お楽しみください。

2025.9.6(土) 14:00~(開場13:30)
前橋文学館 3階ホール

対象 | 一般、先着100人 要予約 | 8月1日金9時より前橋文学館 ☎027-235-8011へ

制作協力 劇団ザ・マルク・シアター **観覧無料** 当日は開館記念日のため、常設展・企画展を無料でご覧いただけます。



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館

「まんだら」作品紹介

物語の舞台はねぶた祭り。婚礼を控えた謙作と東京から訪れたチサ
が出逢い、黄泉の国への旅が始まります。

「まんだら」は、寺山修司が31歳（1967年）の時に制作したラジオドラマであり、戯曲としても発表された作品です。彼の創作活動の中であまり知られていない時期の作品ではありますが、後の作品を深く知る上で貴重な作品とされています。寺山修司の想像力の出発点とも言える「まんだら」。美しい日本語が寺山修司の世界へと誘います。



末唯 m i e (みい)

1976年8月ピンク・レディーとして「ペッパー警部」でデビュー
1981年3月まで4年7ヶ月活動
8月「ブームスはロックが好き」でソロデビュー
その後、舞台、ミュージカル、コンサート、TV等多岐に渡って活動。
2008年には絵本「モコちゃん」
2012年にはエッセイ「美の意識~いつでもピンク・レディーでいられる私の習慣」出版
2018年には食育実践マスターコース認定
2021年五世花柳流宗家家元花柳壽輔より花柳舞千鳥の名を許され名取となる。
現在も定期的にLIVE、舞台等を積極的に開催。



萩原 朔美 (はぎわら さくみ)

1946年11月14日東京生まれ。映像作家。多摩美術大学名誉教授。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1967年、寺山修司主宰の演劇実験室・天井棧敷の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。著書に『死んだら何を書いてもいいわ』(2008年)『劇的な人生こそ真実』(2010年)他多数。2016年4月より前橋文学館館長。2021年、世田谷美術館に、版画、写真、本のオブジェなど、ほぼ全ての作品が収蔵された。2024年4月より前橋文学館特別館長。2023年7月より前橋市文化活動戦略顧問。2025年5月1日より金沢美術工芸大学名誉客員教授。



大島 加代子

劇団「東京壱組」にて演技を学び、舞台、TVドラマ、CM、映画、Vシネマなどに出演。群馬ではミュージカルやリーディングシアター、ラジオドラマに出演するなどフリーの俳優として活動中。



雨宮 潤

群馬県内を中心にフリーランスとして舞台活動を展開。2025年度は、表現ユニットえんぶるによる舞台『トランス』にて後藤参三役を担当した。



ナカジマタカヒロ

打楽器奏者。
音の振動や響きに着目し、個人的に探究を行なって来た。現在はお伽話の様に日常に染み込むような音景を目指している。



大島 政昭

オンシアター自由劇場に所属し「上海バンスキング」の舞台に立つ。その後、下北沢を中心にコントライブを展開。現在は県内を中心にフリーとして活動中。



雨宮 友美

高崎市出身。近年の前橋文学館リーディングシアター出演作は「弱法師」桜間級子役、第53回朔太郎忌「『師よ』～誰があなたの孤独を嘆くか～」萩原アイ役など。



演出 生方 保光

劇団ザ・マルク・シアター主宰。4年連続で朔太郎忌の脚本・演出担当。昨年演劇創作ユニット「百花繚乱」を結成。今年4月から「サンデーモーニング朗読会」を毎週日曜日に前橋文学館で開催中。

[現在の企画展]

第32回萩原朔太郎賞受賞者展 最果タヒ展『愛を囁くのは世界の方で、私たちはそれを二人で聞いている。ここで、二人で真珠になろう。』
2025年6月7日(土)~9月21日(日)

『猫町』を包む
2025年6月28日(土)~9月7日(日)



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館

TEL:027-235-8011 FAX:027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp/>
〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目 12-10



前橋文学館
ホームページ

